

第 2 回 県立高等学校整備構想（仮称）検討委員会概要

日時：平成 20 年 11 月 19 日（水）

午後 1 時 30 分～

場所：甲府城西高等学校 文化創造館

出席者（検討委員）

秋山宏子委員、飯塚武子委員、奥脇義徳委員、川村直廣委員、後藤正比古委員、坂本直子委員、眞田良一委員、清水祝子委員、進藤聡彦委員、中込文江委員、堀内十七三委員、山田紀彦委員、和光泰委員

（内容については、丁寧な表現は部分的に省略しています。）

1 開会

2 会長挨拶

眞田会長

大変寒い中、公私共にお忙しい中、御出席頂き感謝申し上げます。

今日は普通科の単位制、コース制、専門教育学科、さらには総合学科について御検討頂き、職業に係る専門学科については、「地域と連携した人材育成」の中で取り扱うこととする。

今日は本県において全日制普通科・総合学科がどうあるべきか、どの様に魅力づくりを進めていくのかについて、現状を踏まえて、委員の皆様方の活発な意見を伺いたい。大変ボリュームがある内容なので、御協力をお願いする。

3 議事（議長：眞田会長）

議長

第 1 号議案の「全日制普通科（単位制）について」事務局から説明願う。

事務局

「単位制とは」「現構想の内容」「経緯」「全国の公立全日制単位制高校設置状況」「過去の入学者選抜の状況」「現況と課題」「新たな構想における論点」について説明する。

議長

事務局の説明についての質問は。

委員

高校改革アンケートの調査結果で、「すぐに設置した方がよい」と回答した数について、生徒・保護者と教員の間乖離が見られる。高校の先生方の割合が低い理由を伺いたい。

事務局

生徒・保護者からすると興味・関心に応じた科目が選択できるので非常に魅力的で

あるが、推測の話しになるが高校教員の中には全体的に学習した方がいいと考える者もいるのではないか。

議長

他に質問がなければ、本県における単位制高校の在り方、今後の設置の方向性について意見を頂きたい。

委員

単位制高校をはじめとした様々な高校を設立するにあたっては、どういう基準で選択するのか。県教育委員会が決めるのか、学校側の希望なのか。

事務局

既存の3校については、現構想に基づき教育委員会主導で設置してきた。

委員

高校の先生方が考えている姿と、生徒や保護者が期待していることに差があるのでは。これからの方向性を考えていくうえでは、ここが大きい関心事になる。中学校を卒業した生徒の話しを聞くと、自分の将来を決めかねている者が非常に多い。

高校・大学を卒業しても進路を決めかねている者が多いと聞いているが、そのこともあってアンケート結果の数値に差が出ているのではないか。

事務局

高校の教員にはバランスよく育てたいという思いがある。現場の教員は全人的な教育を目指すなかで、保護者や生徒は将来の進路が重要課題になっており、それが数値の乖離となっているのでは。単位制は自分の興味・関心を高めてくれる制度なので、生徒・保護者が希望する割合が高くなっていると分析している。

委員

全日制普通科の単位制高校を作ることは非常に影響力が大きい。なぜ影響力が大きいかというと、かなり人気が高いから。回答した先生がどこに勤務しているかということもあるが、自分の学校の周辺に単位制の高校が設置されると、その影響を大きく受けると考えているからではないか。

有益な制度との説明があったが、どういう点が有益かということも説明してもらってもいいが、そういう高校が自分の学校の周辺に設置された場合のことを危惧していることが、アンケート調査結果の数字に表れているのではないか。

議長

有益な制度であることについて、更なる説明を。

事務局

多彩な学校設定科目の導入により、個々の生徒のニーズに合わせ、芸術や一般教養、受験に対応した授業が可能であること。多くの教育課程を開かなければならないので、教員数が多く配当されること。学年制では実施できない科目も学習でき、進学実績も高くなっていること。異学年との授業も可能であること。3年までは留年がないこと。

一方、多くの授業があるので教室の移動に時間がかかること。クラスの固定がない

ので生徒の行動把握が難しいことなどのデメリットもある。

議長

本県における今後の設置の方向性はいかにあるべきか。

委員

単位制高校に改編した場合の、近隣高校の受検倍率の変化はどうだったのか。

事務局

中学校側の進路指導もあり、倍率としてはそれ程変化していない。

委員

3年間のなかで単位をクリアすればいいとのことだが、3年生の段階までに単位が取れずに、卒業するのが困難になってしまう者はいないのか。

委員

自校を含めて、卒業するのに困難だった例はないと思う。

委員

単位・科目を選択する基準はあるのか。どんな指導をしているのか。

委員

どの科目を選択するかは大きな課題である。既存3校においてはほぼ100%が大学進学希望者であるが、もっと多岐な進路希望者がいれば単位制は非常に有効な制度である。現状では目指す方向が同じなので、選択する科目が似かよってしまう。

3年生になると選択科目が多くなるので、キャリアガイダンスを充実させる必要がある。1年時から将来の職業選択について、考えさせる機会を設けるなどしている。基本的に単位制では一人ひとりの時間割が違うというが、それが出来ない訳ではないが、3校ともほぼ同じ進路なので非常に似かよった選択になっている。本人との二者懇談や親を交えた三者懇談、オリエンテーションなどを通じて選択させ、さらに指導したりアドバイスを与えている。必修科目以外は、強制ではなく自由に選択できる。

どういう生徒が入ってくるかで、柔軟に対応できるのが単位制である。1校時を選択しないで途中から学校に来たり、7校時を選択しないで早く帰れることもできなくはないが、生徒指導上の問題もあり、自分の好きな学習の時間に充てるなどの工夫をしている。いずれにしても科目選択は大きな課題である。

委員

進学に強い先生の科目に人気が集まることも有り得るのか。

委員

教える教師の力量が生徒にはすぐに解るので、当然に有り得る。

議長

実際の単位制高校の校長先生からの話があったが、既存3校については継続していく方向でよいのか。単位制のメリットを生かしながら、デメリットを解消していくな

かで活用していく必要があるという方向でよいか。

ただ単位制の趣旨に沿った学校運営が必要であり、生徒の実態に合わせて多彩な教科・科目をどうやって開設していくか、生徒がいかにか主体的な科目選択ができるか等を検討していかなければならない。

本県には3校の単位制高校があるが、今後の設置の方向性はいかにかにあるべきか。

委員

生徒や地域の単位制高校設置に対するニーズは高く、他校への影響は非常に強い。アンケート調査結果の数字が微妙なのは、単位制高校のメリットが生かされていない結果では。ニーズがある以上開設していく方向でいいが、地域をどこにしていこうかということと、現状を改善していくことを確認する必要がある。

委員

有益な制度であるからこそ影響力がある。全県一学区になったと言っても、有益な制度が近くにあることが望ましい。ただこれを単位制普通科のことを論じただけで、方向性を決めていいのか。専門教育学科や普通科のコース制をからめる中で考えていく方がよいのでは。

議長

その通りだと思う。既存3校の状況を改善しながら、地域の要望やアンケート調査結果も踏まえ、設置していく方向で一旦終わりにしたい。

委員

整理しなければならない学科もある中で、単位制という話しはどうかと思う。単位制の高校では大変な労力が使われているが、その労力を他の学校に向けた方がいいと思う。その労力のことがアンケート調査結果の差となっているのではないか。

議長

単位制については他の形態との関係も考える中で、大きい視野で検討していく。

事務局

その方向でお願いしたい。

単位制は学校全体に関わることであるのに対し、専門教育学科やコース制は1クラスだけのことである。それぞれに特徴があるので、全県一学区制の中でいかにか学校の特色を出すかという大きい視野で論議をお願いしたい。

議長

第2号議案の「専門教育学科について」事務局から説明願う。

事務局

「専門教育学科とは」「現構想の内容」「経緯」「過去の入学者選抜の状況」「現況と課題」「新たな構想における論点」について説明する。

議長

事務局の説明についての質問は。

委員

希望者が減少している中で、卒業生・保護者の満足度が高いのはどういうことか。

事務局

専門科目をたくさん学ぶということで、それに適応出来る生徒の絶対数が少なくなっているが、それを求めて行った生徒の満足度は高いということ。地域に生徒数が多いところでは定員を満たしている状況である。

委員

文理科においては、希望によって40人が文系・理系に分かれるのか。

事務局

その通りである。理数科においても文系を志望する者、英語科においても理系を志望する者もいる。

委員

大学入試の内申書の評価が、相対評価だと専門教育学科は1クラスなので不利であり、普通科の上位にいた方が有利という話を聞いた。理数科だと3年時の文系への転換が難しく、高熟度クラスの方が評価点が高くなるということだったが、実状はどうか。

事務局

今は絶対評価が取り入れられており到達度目標を設定しているので、不利になる様なことはない。

議長

専門教育学科は昭和53年に3校に設置された。甲府南高校と都留高校の理数科は山梨医科大学の開校に対応する動きの中で、もうひとつは日川高校に体育科を設置して以降順次整備してきたが、単位制に移行する中で2校で廃止してきた。

また、学科の定員も40人からスタートしているが、35人、30人と減らすところもあるなど大きく変化しており、定員割れも生じているので、専門教育学科の在り方についても考えていかなければならない。専門教育学科の使命を考える中で、学校の特色づくりとしてどの様な基準で再配置していくべきか。

委員

理数科・英語科の後、文理科や国際教養科が出てきたが、生徒に違いを聞かれても解りにくく答えられなかった。生徒に解りやすい具体的な資料があればいいと思う。

議長

中学校段階の生徒に説明するには解りにくいところがあると思う。そういう点についても考えていく必要がある。専門教育学科という名称は本県独自のものであり、特定分野に強い興味・関心を持つ生徒に対して、適性にあった指導をしていくことを目的として設置された。25単位という縛りがある中で、専門教育学科をどうしていくべきか。

委員

専門教育学科に対する生徒の意識が変わってきているように感じる。しかしながら、相変わらず学力の高い生徒が入ってきており、卒業後の実績もあげているし、満足度も高い。そういう生徒にとっては、期待される学科である。

県境の学科は定員割れが生じているが、県境にも設置したことには、他県への流出防止の意味があった。40人の定員を30人に減らし、さらに半分にも満たない状況であるならば、改廃については柔軟に構える必要がある。廃止するだけでなく、学校によっては専門教育学科の希望もあるかもしれないので、柔軟に検討すべきでは。

委員

事務局から見て、成功した学校・成功しなかった学校はあるのか。

委員

事務局からは言いにくいと思うが、一般的に見て需要があるところが成功していて、需要がないところは必ずしも成功していないのでは。

議長

過去の入試結果を見ると、定員割れしているのは石和高校、桂高校もあるが県境の高校とも言える。

改廃については、または新たな設置については柔軟に対応していくべきであり、教育課程についてもより柔軟に対応していくべきではないかと思う。

委員

吉田の理数科が定員割れした理由は。

委員

入学してから縛りが強く、部活動が出来ない等の理由で敬遠される。

委員

必ずしもニーズが高くないということか。

委員

ニーズはあるが、勉強もしたいし部活もしたい生徒が多い。高熟度クラスに入っていれば部活動も出来る。

委員

文理科や英語科にも縛りがあるのか。

事務局

部活動と勉強を両立したいと思う生徒は多い。専門教育学科のある高校への勤務経験もあるが、部活動が出来ないということはないと思う。学校の説明や、中学生間の話の中で出ているのかもしれないが、学習時間が多いことは確か。

委員

専門教育学科を受検する人は中学校でも優秀な生徒だが、中学校でトップだったとしても、1クラスだと下の方になってしまいやる気を無くしてしまう生徒もいる。そこでがんばる人もいるが、普通科の中で上の方にいた方がいいという話もある。

委員

息子が行っていた学校には「0」校時と「7」校時があった。体育系と文化系双方に入っている生徒もいたが、補習授業や課題プリントが多く、業者テストや講習もあり、生徒にとっては厳しいかも。

上を目指す人にはいいが、部活動をしたり、友達づきあいをしたりすることを考えると大変だと思う。

委員

そういう状況は、中学校と高校が連携して情報提供していれば解決できる問題ではないか。専門教育学科自体が悪い様には聞こえない。高校の状況を把握して中学校が進路指導していれば、解消できる問題ではないのか。

委員

1回だけのオープンスクールと、先輩達の声や進路指導だけで決めてしまっている状況がある。

委員

かつてはそうだったが、今はかなり公表されている。学校説明会もあるし、部活動での交流もある。その時の反省もあったのではないか。

委員

中学校側が主催する学校説明会もあるし、高校側が開催するオープンスクールもある。入試についての中学校の先生への説明、生徒・保護者への説明の中でも各学科の説明もしている。それで十分かということもあるが、全くないわけではない。

本人の適性に合うかどうか大きい。適性に合えば大きく伸びるが、そうでないと大変厳しい状況になる。

委員

たくさん宿題を出すについて行くのが大変で、出来る人はちょうどよくて、物足りない人は自発的に勉強するので、全ての生徒に合わせるのは現実的に難しい。

委員

どういう方法で生徒を選抜するのか。

事務局

学力検査においては傾斜配点を導入し、それによって生徒の適性を見極める。

委員

希望すれば全てが行けるのか。

事務局

定員があるので、上回っている場合は不合格になる。

委員

同じ基準で合否が決まるのか。

委員

専門教育学科では特定教科の比重を高くしていることが他の学科とは違う。それに中学校からの調査書と合わせて判定する。

委員

専門教育学科の入試状況に凸凹があるのは、全県一学区になったということもあるが、私立高校の努力の結果だと思う。親御さんが私立高校へという人が増えている。そういう努力も県立高校も参考にしたらと思う。凸凹に合った定員等を考えて行かなければならないと思う。

議長

専門教育学科については、普通科高校の特色づくり、特に進路という意味においては牽引的な役割を果たしてきた。特色づくりとして定着している学校については、今後も継続していく。定員割れや中味に問題のある学科については、改編していくことも考えて行かなければならない。新しい高校づくりとして、地域の状況に応じて新たに設置していくこともよいのではないか。専門教育学科にあっても、柔軟な教育課程の編成が必要であるということでもとめたい。

委員

単位制にしても専門教育学科にしても、私学がやるとしたら経済的な負担が大きいので、公立が何をすべきかを考えてもらいたい。専門教育学科ならばもっと範囲を拡げて、芸術学科など子供が選べる学科を設置すべきではないか。組織が大きいのだから出来るものがあると思う。

議長

芸術、体育についても新たに検討していくという課題もある。そういうことも含めてより柔軟な専門教育学科、より柔軟な教育課程の編成をお願いし、専門教育学科については終わりとしたい。

(休憩)

議長

第3号議案の「普通科のコース制について」事務局から説明願う。

事務局

「コース制とは」「現構想の内容」「経緯」「過去の入学者選抜の状況」「現況と課題」「新たな構想における論点」について説明する。

議長

事務局の説明についての質問は。

なければ、全県一学区の中で普通科の特色づくりをなお一層推進する方策として、コース制をどのように見直していくべきかについての意見を。

委員

大学を進路として選んでいる率はどれくらいなのか。

事務局

(コースを含む普通科2校についての数値を提示)

委員

専門教育学科にない長所がコースにあるのか。全県一学区になったので、コースを希望する様な生徒は専門教育学科を希望する。

委員

コース制は少し中途半端な気がする。本当に勉強したい生徒は専門教育学科に行く。

議長

専門教育学科に準じた教育と言いながら、コース制の学校は特色づくりのために苦勞している。教員の加配もないので、柔軟な見直しが必要ではないか。コース制は中途半端という指摘があったが、40人の定員のところを30人まで減らしている状況の学校もある。

日川高校では単位制移行に伴い廃止され、甲府昭和高校においては数年に渡って定員割れが続き、学校が維持出来ないということで、学校と教育委員会が協議したうえで廃止している。全県一学区という状況の中で、より柔軟な制度にしていくことが必要だと思う。コースの学習内容、名称、募集方法などについては、工夫して見直していくことも求められている。現構想から12年が経過し、曲がり角に立っている。

委員

かなり苦しい状況に追い込まれている。増設していくには、学校の希望や生徒のニーズで判断していくことになるが、廃止する場合にも学校等の考えも聞いていただきたい。総合選抜の時はコース制の意味があったが、ここで全く無くしてしまうと無くなった学校はもっと苦しくなる。とってしまうもいいが、単位制への改編や専門教科育学科の設置も含めて柔軟に検討する方向で。

議長

コース制については、そういった状況で対応するという事をお願いしたい。

それでは第4号議案の「総合学科について」事務局から説明願う。

事務局

「総合学科とは」「現構想の内容」「経緯」「全国的な設置状況」「過去の入学者選抜の状況」「総合学科卒業後の進路状況」「現況と課題」「新たな構想における論点」について説明する。

議長

事務局の説明についての質問は。

総合学科とは10年ちょっとの新しい学科であり、高校改革の目玉である。

委員

総合学科の進学状況があるが、普通科についても示していただければ理解が深まる。

事務局

総合学科について就職者が少ないのではないかと指摘もあるので、数字を示したところなので、次回までに用意したい。

議長

質問が無いようなので、意見を伺いたい。

多様な生徒のニーズに応え、新しいタイプの高校として導入した総合学科の設置を、今後普通科の単独改編を含めどのように推進していくべきかということで御論議いただきたい。普通科の単独改編ということについて、更なる説明を。

事務局

今までの総合学科は、専門高校の統合再編後に新たな学校に設置してきた。総合学科の特性は、生徒自らの適性や進路などに応じて主体的に学べるところにあるので、普通科高校においても総合学科が多様な学習ニーズに応じた学校の特色づくりに効果を発揮していくのではないかと考えている。本県にはまだないが、他県においてはかなり例があり、成果をあげている。

委員

本県で総合学科を作る時にかなり反対があったが、他県ではむしろ積極的に設置したいということの方が多い。本県には普通教科を主体とした総合学科はないので、設置していただきたい。設置については地域のバランスもあるが、交通の便がいい所を改編対象にしてもらいたい。

委員

これまでの総合学科は専門学科を統合して作るというイメージが定着しているが、本来は生徒の多様な要求に応じて多様な科目が選択出来ることがメリットだと思う。前任校では学校の特色づくりに悩んでおり、県外のいくつかの総合学科高校を見学させていただいた。いずれも普通科系の総合学科だったが、それまで特色を出し切れなかった高校が総合学科に改編することで学校が活性化し、進学実績があがって地域の信頼を得たということだった。職業教育を目指す総合学科ではなく、生徒の多様なニーズに応えていくため、周辺の学校が特色を出すためには総合学科の考え方が一致するのではないか。

委員

昭和38年に石和高校から分離して山梨園芸高校が出来たが、色々な数値を見るとこの2校が一緒になるのが非常に理想的だと思う。ただ交通の便がよく、通しやすい場所ということは必要条件である。地域を選定するには、立地条件のよいところに。

全県一学区になり親御さんは非常に悩んでいる。送り迎えが大変になり、生活費に

占める教育費の割合が高くなっている。

事務局

全県一学区の中でどう高校を配置していくかについては、今後の検討項目になっている。ある程度通学出来る範囲に、選択できる学校を残していくことが必要だと考えている。

議長

全県一学区が始まって3年目であるので、もう少し検証していく必要がある。このことは入学者選抜制度審議会の結論を受けて、県教育委員会が決めたことだが更なる検証・検討が必要である。

委員

普通科型の総合学科と単位制普通科の違いは。

委員

総合学科は産業教育に重点を置いており、専門科目から選択出来るようになっている。1年時に「産業社会と人間」という科目を勉強し、自分の将来に向かって系列を選択する。その中で職業観・勤労観を育成していく。単位制普通科には「産業社会と人間」という科目はなく、普通教科が主となる。

委員

総合学科は就職色が強いということか。

事務局

総合学科は就職するか進学するか進路決定に迷っている生徒には有効である。

委員

普通科型の総合学科には「産業社会と人間」という授業があるのか。

事務局

その通りである。

委員

中学校現場は総合学科に期待している。地域に根ざした学校が一番身近だから。山梨の産業、地場産業や地域を支えていくのは子供達である。高校・大学を卒業しても地元に残ってくれる子供を育てないと。企業で使える学科として、企業と連携した学科としての総合学科を山梨の特色づくりとして進めて欲しい。

事務局

中学生が卒業と同時に自分の進路を決めるのは難しいところがある。総合学科では1年次に「産業社会と人間」の授業があるので、職場見学やライフプランの発表を通じて、自分の将来を見つめられる。2年次以降は自分の進みたい系列の学習をすることが出来る。今までは専門高校の統合のイメージがあったが、そうではなく自分の将来についてゆっくり考えられる学科である。

委員

普通科型の総合学科とは、総合制高校ということか。

事務局

総合制高校とは峡東新設高校のように、普通科・専門学科・総合学科と複数の学科を持つ高校のこと。総合学科とはいくつかの系列を持っている学科である。

委員

普通科型の総合学科と言った場合、どの様な系列が考えられるのか。

委員

「産業社会と人間」の授業がより職業を意識させるものなので、医療や福祉などの看護系、国際などの語学系等、実学をイメージしやすい系列名が付いている。

事務局

他県では、語学人文系列、自然科学系列、社会科学系列、芸術文化系列、人間科学系列等々があり、進学実績も十分に上げている。

議長

今までの議論をまとめると、生徒の多様性に応え、交通の利便性の良い普通科高校を総合学科に単独改編していくという方向。生徒の実態・社会情勢の変化に対応し、地域の産業と連携した系列・科目の見直しを進めていく。既存3校についても、系列・科目の見直しを進めていくということで整理したい。

最後に本日の検討項目を通しての意見・質問は。

委員

本日検討した様な学校を機能させるには、人の配置があってこそ特色づくりが出来る。教員の配置については十分に考慮していただきたい。

議長

現実にはどうなのか。

委員

単位制高校については、2年連続で1名減になっている。あまりに減員されると多様な科目が開けなくなってしまう。

事務局

人は減っているが、科目開設には支障がないよう配慮されていると思う。

委員

子供のニーズが変化、親の考え方も変化している。新しい高校を考える上では、高校での不登校の状況も考えていく必要があるのではないかと。可能であればそのことについての資料も示して欲しい。

事務局

今後検討する中で、資料を整えていきたい。

委員

普通科高校の話しをしてきたこともあるが、大学進学を前提にして話しをしている雰囲気がある。中学校段階では98%以上の者が進学するという状況の中で、非常に多様な子供がいる。魅力ある学校づくりということを、進路・進学だけで考えていいのか。もっと人間づくりということに関わってくるのではないか、限られた時間の中での議論なので難しいとは思いますが。

議長

大切な視点だと思う。ともすれば論議の視点が大学進学になってしまう。魅力ある高校づくりについて、人間づくりという視点で考える必要があると思う。

委員

甲府西高校が単位制になって、南アルプス市の生徒が甲府に流れるようになった。地元の高校の先生方は、並々ならぬ努力をして学校を良くしようとしている。職業的な学科を入れたりすれば、多少は緩和されるのかとも思うが、これでいいのかと思う。

議長

大学進学という視点を持っているからということもあるが、全県一学区の検証ということに繋がるかと思う。人間づくりということで検討いただきたい。

委員

少子化の影響が出てくると思うが、その点の説明を。

事務局

平成34年には現状から約2000名の生徒数減が見込まれる。今後の検討で、学校の適性規模、統廃合基準、学校の適正配置についての検討をお願いしたい。

議長

その他にはない様なので、以上で議事を終了する。

4 その他

次回日程について

今回は12月19日(金)農林高校において行う。

閉 会